



1部70円(税抜き)

対がん協会報

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

第679号

2019年(令和元年)
9月1日(毎月1日発行)

主な 内容	1～4面	朝日がん大賞 日本対がん協会賞
	5面	がん教育アニメ動画教材「よく わかる！がんの授業」手話・字 幕版が完成
	8面	がん3年、5年生存率公表

朝日
がん大賞

国立がん研究センター がん対策情報センターに

日本対がん協会賞は4氏1団体に



がん対策情報センターの活動紹介のパネルと
若尾センター長

日本対がん協会は9月1日付で、2019(令和元)年度の朝日がん大賞を、国立がん研究センターがん対策情報センター(若尾文彦センター長)に贈ると発表した。

また、日本対がん協会賞は、がん征圧活動に大きな功績のあった4氏と1団体に決まった。9月13日に松山市で開かれる「がん征圧全国大会」で表彰される(2～4面に受賞者の紹介)。

がん対策情報センターは、がん登録の運用と活用、日本のがん情報提供とがん相談支援体制の構築などを目的に2006年に設立された。以来、がん診療連携拠点病院における院内がん登録の実施体制を整備し、07年から全国

集計を実施。15年には07年症例の5年生存率を公表、19年には全国がん登録に基づく、がん罹患数を初めて集計した。構築した「がん情報サービス」のサイトでは、がんの解説から診断、治療、療養まで幅広い範囲の情報を、公募した患者・市民パネルや専門家の協力で作成し、発信し続けている。インターネットを利用できない人に向けてのがん情報冊子「患者必携」も作成し、全国のがん相談支援センター等を通して提供、がん相談支援センターのがん相談員の育成も進めている。また、科学的根拠に基づくがん対策のため、がん診療評価指標を開発・測定し、公表してきた。こうした日本のがん対策、特にがん統計の集計、正しい情報に基づく患者支援に大きく寄与したことが評価された。

日本対がん協会賞個人の部に選ばれたのは、福島県郡山市の慈山会医学研究所付属坪井病院名誉院長の岩波洋氏(74)、山形市の大泉胃腸科内科クリニック院長の大泉晴史氏(71)、愛媛県総合保健協会副理事長の仙波匡彬氏(75)、仙台市の杜の都産業保健会一番町健診クリニックの矢嶋聰氏(82)

の4氏。それぞれの地域で、がんの早期発見・早期治療の啓発や、精度の高い検診体制の確立に尽力し、地域住民の健康に大きく貢献したことが評価された。

日本対がん協会賞団体の部には、新潟県と呼ばれる胃内視鏡検診システムを確立し、国が16年に胃内視鏡検診を対策型検診と認めるにあたり、多大な貢献をした新潟市医師会(藤田一隆会長)が選ばれた。

朝日がん大賞は、日本対がん協会賞の特別賞として、朝日新聞社の協力で2001年に創設され、今年で19回目。日本対がん協会賞は52回目で、がん征圧活動に功績のあった個人や団体に贈られる。

選考委員は次の通り。垣添忠生・日本対がん協会会長(委員長)、武藤徹一郎がん研有明病院メディカルディレクター・名誉院長(副委員長)、横倉義武・日本医師会長、大内憲明・東北大学名誉教授、津金昌一郎・国立がん研究センター社会と健康研究センターセンター長、石田勲・朝日新聞社科学医療部長、後藤尚雄・日本対がん協会理事長。

がん相談ホットライン 祝日・年末年始を除く毎日
03-3541-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎ 03-3541-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
社労士による就労相談(要予約)
予約専用 03-3541-7835

日本対がん協会は医師による面接・電話相談と社労士による就労の電話相談(ともに無料、電話代は別)を受け付けています。予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までです。医師による相談は電話が1人20分、面接は30分、社労士による電話相談は40分になります。詳しくはホームページ(<https://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

朝日がん大賞

「日本のがん統計の集計、正しい情報に基づく患者支援に貢献」

科学的根拠に基づいたがん対策推進へ

国立がん研究センターがん対策情報センター（若尾文彦センター長）

がんに関する統計情報や各種のがんの基礎知識、診断・治療、療養に関する情報など、がんに関する幅広い様々な情報を分析・整理し、ホームページや冊子などを通して国民に提供しているのが、国立がん研究センターがん対策情報センターだ。科学的根拠に基づくがん対策を国が進めるうえでも、よりどころとなる日本のがんに関する情報発信の中核組織として2006年10月に設立されて以来、日本のがん対策、特にがん統計の集計、正しい情報に基づく患者支援に大きな役割を果たしてきた。インターネットの普及で様々ながん情報があふれる中、信頼できる最新のがん情報を入手する道標として機能している。

患者の声から生まれたがん対策への情報源

がん対策情報センター設置の方針が最初に示されたのは、2005年に厚生労働省が出した「がん対策推進アクションプラン2005」だった。その背景には、2000年代初め、がんが日本人の死因の第一位を占めながらも、「がんに関する正しい情報がわからない」「地域や施設によって受けられるがん医療に格差がある」「海外で承認されている新薬が日本で使えるようになるまで時間がかかりすぎる」といった、がん医療の問題点に対する患者・家族ら不満や不安の声の高まりがあった。

こうした声を受けて策定されたのがアクションプラン2005であり、翌年の06年6月に成立したがん対策基本法だった。

アクションプランで

は「がん情報提供ネットワーク」構築の推進を掲げ、様々ながん対策に関連する情報の収集、分析、発信等の中核組織を当時の国立がんセンター内に設置することをうたった。がん対策基本法の成立でがん対策が政府としての取り組みとなり、がん対策情報センターは06年10月から活動を始めた。

それまで国立がんセンターには情報提供の専門部署はなかったが、「がん情報サービス」というホームページを作って様々ながんに関する情報の発信を始めた。「がん情報サービス」のトップページには「各種がんの解説」や「予防と検診」、「診断・治療方法」「がんと付き合う」「統計」「病院を探す」といった大項目が並び、ここから、詳細な情報を得られるようになった。「診断・治療」からは、治療を受けるときに注意したいことや薬の使い方の注意点など、「がんと付き合う」では食生活とがん、心のケアなど、「統計」ではがんに関する最新の統計情報を、「病院を探す」では全国のがん診療連携拠点病院や緩和ケア病棟を持つ病院の情報などが提供されるようになった。

患者・市民パネルの意見聞き提供情報作成

常勤スタッフ35人でスタートした

が、より必要な情報提供のため、08年からは患者・市民100人で構成する「患者・市民パネル」を設置。年2回、どういう情報を発信したらよいのかなど意見をきき、各分野の専門家パネルの応援も受けて情報作成を進め、最新情報の追加や更新を続けている。「がん情報サービス」は、開設以来、大きなリニューアルが2回され、ウェブのページ数が1万9600ページ、毎月のページビュー数も600万近くになった。

インターネットを使えない人向けに各種がんに関する情報冊子や、療養情報などのガイド手帳である「患者必携」も作って、がん診療拠点病院内のがん相談支援センターなどを通して配布している。当初は4種だった冊子も69種類になった。

がん医療均てん化の対外支援も

また、がん登録の情報分析や拠点病院などでの院内がん登録の技術支援、がん登録情報の運用と活用も同センターが担っている。07年から拠点病院の院内がん登録の全国集計を進め、15年には07年症例の5年生存率を、18年には施設別や病期別のデータを公表できるようになった。一方、16年から全国がん登録が始まったことで、



がん情報サービスのトップページ



がん統計のページ

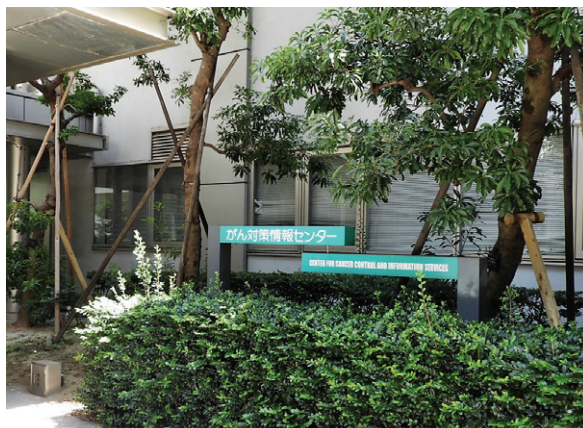
19年には16年の診断症例で、日本で初めてがんの罹患者の実数を集計することができた。

また、全国のがん医療の水準向上や均てん化を図るための対外支援活動も同センターの機能の一つとなっており、拠点病院に設置されたがん相談支援センターのがん相談員に、どんな技術が必要か検討し、研修も進めてきた。

科学的根拠に基づくがん対策を進めるため、がん対策がうまくいっているのか、実態を把握するため、がんの診断治療を受けた患者に対する患者体験調査なども実施して、がん診療評価指

標の開発・測定も行い、公表してきた。

こうした幅広い活動が評価されたが、同センター発足時から運営にかかわってきた若尾文彦・同センター長は「日本にはがんに関する幅広い情報を出しているところがなかったため、いろいろな情報を作ってきた。まだまだがん対策情報センターについて周知が十分ではないが、正しい情報はここからということを認知してもらう活動



がん対策情報センター

を続け、正しい情報をしっかりと伝えられるようにしたい」と話している。

日本対がん協会賞

福島県のがん検診受診率向上や禁煙教育に貢献

岩波 洋(いわなみ・ひろし)74歳 慈山会医学研究所附属坪井病院名誉院長



1969年に新潟大学医学部卒業後、東京女子医科大学第二病院、金沢医科大学の外科で胸部血管外科や肺がんの外科治療に従事。88年にがんを中心とした様々な病気の診断、治療、予防を目的に設立された福島県郡山市の坪井病院に赴任した。赴任直後から、肺がんの手術治療などにあたる一方で、郡山市内の小中学校での児童、生徒への禁煙教育にも取り組むようになった。近年

は、事業所の社員や一般市民向けの禁煙と生活習慣病予防の出前授業、がん教育の授業と分野も広がり、年に20回ほど講演を続けてきている。

一方、福島県医師会の生活習慣病予防委員会委員長となった2002年以降は、肺がんだけでなく、各種がんの予防啓発、検診の普及啓発、精度管理の向上にも尽力した。健康づくりに向けた市民講座として毎年「健康づくりフェスティバル」を開き、がん予防の普及啓発を推進してきている。

さらに福島県がん対策推進協議会委

員、福島県がん治療連携協議会委員など、広範囲の行政の運営にも参画し、指導、提言を行い、各種保健事業の充実に貢献してきている。福島県保健衛生協会の肺がん集団検診精度管理委員会委員も長年務め、がん検診の従事者の資質向上にも寄与してきた。

現在、病院では検診と人間ドックでの結果説明などを担当している。その際、市民講座での講演に使った資料を使って30分近くかけて説明するなど、ここでも「啓発活動」を続けている。

山形県の消化器がん検診の受診率、精度管理向上に貢献

大泉 晴史(おおいずみ・はるふみ)71歳 大泉胃腸科内科クリニック院長



岩手医科大学を1972年に卒業後、山形県立中央病院で研修を続けている間に消化管内視鏡検査に興味を持った。当時全国一だった胃がん死と一緒に何とかしようと上司から誘われたこともあり、大学に戻らず、同病院の消化器内科に所属し、がん検診事業にもかかわるようになった。

77年に山形大学医学部第2内科に入局し、同大に所属しながら、県立中

央病院内科医長や、併設の県立成人病センターの内視鏡科長等を兼任し、日常診療と胃がん検診の読影や胃・大腸内視鏡診断にかかわってきた。

89年に開業後は、山形市医師会消化器検診委員会代表や、県医師会消化器検診中央委員会の委員長等を歴任し、胃がんX線検診の読影・撮影技術や内視鏡診断の精度向上のため、受け入れ医療機関の体制整備や医師、放射線技師の教育、指導に尽力し続けている。

若手の消化器内科医師の育成もかね

て96年には「山形県胃と腸勉強会」を立ち上げ、若手医師のX線読影力、内視鏡診断能の向上を図ってきた。

対策型内視鏡検診の導入を視野に、「受診者の不利益を少なくするには、検査医のスキルアップと均てん化が不可欠」と山形市医師会内に内視鏡二次精検精度管理委員会を設置し、内視鏡検査の精度向上に努めている。

またピロリ除菌までを考慮した新たな胃がん検診の構築に取り組むなど、これまで山形県の消化器がん検診に多方面で貢献してきた。

愛媛県のがん検診事業の進歩・発展に貢献

仙波 匡彬(せんば・ただあき)75歳 愛媛県総合保健協会副理事長



1969年に愛媛県総合保健協会の前身の愛媛県がん予防協会に入職。業務係に所属し、検診事業にかかわるようになった。

会場に行っただん検診の説明をするなど、県内70の全市町村に足を運んでがん検診の意義・必要性を説き、がん検診への県民の理解を深める活動を続けてきた。

がん検診の事業畑を中心に仕事を続けている中、事業部副部長だった98

年に、愛媛大学の肺がんの専門医の働き掛けもあって、当時日本で初めてとなるCT肺がん検診とCR肺がん検診ができる検診車を導入し、内部の運用体制の整備を図った。常務理事に就任した2008年度にはがん検診の信頼性確保のため、県内の有識者からなる5大がんの「がん検診精度管理委員会」の立ち上げを主導し、がん検診の精度管理の水準向上に貢献した。

また、「がん予防重点健康教育」と称して県内の大学等での出前講義の実施も企画。県内の各市町村へ、専門職の

講師による子宮頸がんの予防啓発など、様々ながん予防教育を推進してきた。ピンクリボン運動やリレー・フォー・ライフの活動にも積極的にかわり、県民にがん検診の大切さを訴えてきた。

17年に副理事長に就任し、18年度には、受診者の特性に合わせた「コール・リコール」事業を、現在の県下20市町中16市町で受託し、受診率が大幅上昇した市町から評価を受けるなど、がん検診事業の進歩・発展に大きく貢献した。

宮城県の子宮がん検診の精度管理に貢献

矢嶋 聡(やじま・あきら)82歳 杜の都産業保健会一番町健診クリニック



1962年に東北大学医学部を卒業後、同年から宮城県で始まった子宮頸がん集団検診に、当時東北大学医学部産婦人科で

検診のリーダー役だった九嶋勝司氏、野田起一郎氏の指導のもとでかわるようになり、車検診による婦人科検診の基礎を築いた。標準的な子宮頸がんの検診方式が確立される過程で先駆的な役割も果たした。

70年に東北大学医学部産婦人科助

手になって以来、同大産婦人科講座で婦人科がんなどの手術治療や婦人科がんの発生過程の研究に従事。79年に講師、81年に助教授、85年に教授に就任、2000年の退官後は06年まではNTT東日本東北病院院長を務めた。

この間、73年に宮城県対がん協会の婦人科検診診断委員会委員に就任以来、同協会の子宮がん検診の診断法の指導などを通し、子宮がん検診の精度管理に寄与した。発生の過程で細胞を見て、その後悪性化するかどうかを見極める研究を続けてきたことから、「子

宮頸がんは、前がん病変で発見できれば、がん化を防げる病気」と強調する。

88年から06年までは同協会の副会長を、89年からは宮城県成人病検診管理指導協議会委員などを歴任し、宮城県全般のがん対策に貢献した。日本産科婦人科学会の理事も長年務め、子宮頸がんや子宮体がんの検診精度の管理や早期診断法に関する研究に尽力した。

07年からは杜の都産業保健会一番町健診クリニックに勤務し、82歳となった今も細胞診にかかわり続けている。

胃内視鏡検診の確立と死亡率減少効果の検証に貢献

新潟市医師会(会長 藤田一隆)

新潟市の胃がん検診は、検診車による集団検診に加え、1984年からは医療機関による施設X線検診も実施していた。胃内視鏡検査を施行する医療機関も増加し、医療機関・市民双方から内視鏡での胃がん検診を望む声が高まってきたため、新潟市医師会は96年に同市との会議で胃内視鏡検診実施の要望を出し、98年から同市との折衝を開始した。国が対策型検診として認めていない方法での妥当性や検診費用等が問題となったが、粘り強い折衝の結果、「40歳、45歳、50歳以上の住民が、検査費用は同額で、胃X線検診と胃内視鏡検診を自由に選択する形式」で、2003年から、全国にさがけて胃

内視鏡検診を導入することになった。

新潟市医師会は、検診の精度を上げるため、内視鏡専門医による「胃内視鏡画像読影委員会」を設置し、内視鏡検診の実施医療機関には、専門医による全症例のダブルチェックを必須とし、画像評価をつけて検診機関にフィードバックする方式を取り入れた。研修会等も適宜開催し、検査医のレベル向上も図った。検診開始の10年後には、同市の胃内視鏡検診のデータを用いた国立がん研究センターの研究で死亡率減少効果が証明され、国が16年に胃内視鏡検診を対策型検診と認めるにあたり、多大な貢献をした。

「新潟方式」と呼ばれるこの検診シス

テムは、胃内視鏡検診の指針の基となり、医師会主導で胃内視鏡検診の重要性を普及できたモデルケースとしても高く評価された。新潟市医師会の藤田一隆・藤田内科消化器科医院院長は「医師会だけでなく、住民の強い要望で始まり、大学を含めた関係医療機関、行政担当者の熱意、検診実施機関の多大なる協力、読影の委員等の力が結集してできた成果です」と話している。



新潟市医師会の胃内視鏡検診

永年勤続表彰者

今年度の永年勤続表彰を受けられるのは23団体、55人のみなさんです。(敬称略)

◇北海道対がん協会

廣田 恵理果、小松 靖子、松谷 和江

◇青森県総合健診センター

森山 功

◇岩手県対がん協会

大和田 陽子

◇宮城県対がん協会

加藤 勝章、橋本 晋一、八島 幸子

◇やまがた健康推進機構

金原 博紀、竹田 拓、下重 理江

◇福島県保健衛生協会

福島 京子

◇茨城県総合健診協会

鈴木 一石、二方 香奈子、水越 直美、

田家 美加、海老根 和博、小野 恵美子

◇栃木県保健衛生事業団

高橋 英和、山口 真史、小澤 稔子

◇埼玉県健康づくり事業団

石川 弘幸、市田 美紀

◇石川県成人病予防センター

五十嵐 光英、高瀬 悦子、

水口 理恵、武田 純

◇三重県健康管理事業センター

中井 昌弘、清水 ゆかり

◇滋賀県健康づくり財団

福井 健、池田 良

◇京都予防医学センター

村下 綾野、松原 奈津子

◇兵庫県健康財団

紙名 祝子

◇広島県地域保健医療推進機構

吉田 寿美、對馬 照美、玉田 久詠、

伊藤 憲子、岩永 幸子

◇山口県予防保健協会

田部 一則

◇とくしま未来健康づくり機構

蟹谷 和見

◇愛媛県総合保健協会

宇都宮 親美、高橋 若菜

◇長崎県健康事業団

中村 久助

◇熊本県総合保健センター

西 宏朗、宮崎 寿子、本田 紘子、

尾崎 ひとみ、土亀 直俊、村上 晴彦

◇大分県地域保健支援センター

後藤 朗、小南 健次、長濱 ゆかり

◇宮崎県健康づくり協会

川崎 美和

◇鹿児島県民総合保健センター

有馬 大輝

がん教育アニメ動画教材 「よくわかる！がんの授業」

字幕手話版
を作成

日本対がん協会は、聴覚障害者へのがん教育に活用できるよう、文部科学省選定のがん教育アニメ映像教材「よくわかる！がんの授業」(監修：中川恵一・東京大学医学部附病院放射線科准教授)に手話動画と字幕を入れた動画を新たに作成した。

「よくわかる！がんの授業」は、文部科学省の「がん教育推進のための教材」で示された、がん教育で取り上げるべき9項目(①がんとはどのような病気でしょうか?②我が国におけるがん現状③がんの経過と様々ながんの種類④がんの予防⑤がんの早期発見とがん検診⑥がんの治療法⑦がんの治療における緩和ケア⑧がん患者の「生活の質」⑨がん患者への理解と共生)の内容を、

わかりやすくクイズ形式で学べるようにした全12話からなるアニメ動画教材。2016年10月に作成したこの動画に、社会福祉法人聴力害者情報文化センターと株式会社アイエスゲートの協力で、各話ごとに字幕と手話動画を挿入した。

日本対がん協会のサイト(<https://www.jcancer.jp/cancer-education/syuwa.html>)から1話ごと、または全体を通してyoutubeで視聴できるほか、日本対がん協会のサイトから全12話一括の動画をMP4ファイルとしてダウンロードできる。

ろう学校でのがん教育の授業や聴覚障害者を対象にしたがん啓発セミナーなどで活用できる。

ろう学校でのがん教育の授業や聴覚障害者を対象にしたがん啓発セミナーなどで活用できる。



聴覚障害者用「よくわかる！がんの授業」の一場面

2017年度グループ支部 がん検診の実施状況から

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果								
				がん(D)	がん疑い	CIN I (軽度)	CIN II (中等度)	CIN III			CIN I～IIIの 区分不明	AIS等
								高度	上皮がん	詳細不明		
北海道	64,083	545	513	8	140	19	19	67	31	0	0	6
青森	39,888	759	669	3	0	202	93	53	26	0	0	0
岩手	43,541	856	755	12	0	162	60	20	16	1	2	3
宮城	110,729	954	907	7	1	305	158	36	42	0	0	0
秋田	20,393	280	240	3	0	75	52	27	10	0	0	0
山形	37,624	366	299	0	0	91	25	0	41	0	0	0
福島	69,610	805	756	12	10	161	105	0	0	57	0	3
茨城	95,592	1,824	1,600	14	0	402	176	68	15	54	4	14
栃木	39,713	1,135	936	6	0	394	132	30	11	0	0	3
群馬	29,956	281	246	3	51	67	33	11	12	5	1	1
埼玉	11,470	118	78	0	0	22	17	0	0	6	0	0
千葉	91,565	1,438	1,276	6	0	355	110	66	8	0	9	0
新潟	50,222	905	767	3	1	197	65	32	19	0	0	0
山梨	141	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	17,103	148	125	2	4	39	18	10	3	0	0	0
富山	49,995	358	321	2	16	110	51	39	10	0	0	3
石川	16,961	179	153	4	0	48	23	14	9	0	0	0
福井	32,662	418	362	9	0	122	62	55	0	0	0	0
愛知	8,743	218	171	0	0	41	23	9	0	0	1	0
三重	18,008	253	209	0	5	46	15	0	0	18	0	4
滋賀	6,085	10	6	0	0	1	0	2	0	0	1	0
京都	18,123	298	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	20,895	655	543	3	1	91	34	42	5	-	-	1
奈良	2,144	27	20	0	0	7	3	0	0	0	0	2
和歌山	1,622	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
鳥取	13,599	66	48	1	0	15	3	8	0	0	1	0
島根	8,710	165	142	2	1	29	10	6	2	1	26	1
岡山	25,270	190	120	3	0	30	10	9	4	0	0	1
広島	14,050	151	130	3	0	38	18	7	1	2	0	0
山口	6,390	161	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島	5,250	71	43	0	0	8	3	0	0	6	0	0
香川	12,194	114	86	3	0	30	15	18	5	0	0	1
愛媛	25,477	274	248	8	0	80	35	45	0	0	0	0
高知	21,002	255	188	2	0	37	28	16	10	0	0	0
福岡	49,882	955	761	12	0	214	95	42	14	0	5	3
佐賀	40,236	1,178	926	21	124	379	106	54	19	0	0	3
長崎	16,841	214	202	3	31	66	28	17	2	6	0	2
熊本	35,494	1,400	1,164	10	0	4	1	11	17	0	0	0
大分	20,269	345	314	2	0	102	24	12	5	4	0	6
宮崎	14,923	261	224	1	2	62	18	21	6	0	0	0
鹿児島	55,357	423	397	5	23	104	65	33	1	0	0	3
沖縄	14,151	98	79	1	1	22	14	6	3	0	0	0
合計	1,275,963	19,155	16,026	174	411	4,178	1,747	886	347	160	50	60

◆子宮頸がん

子宮頸がん 以外のがん	精検の結果			精検不要の 人数 (E)	精検受診の 有無を把握 していない人数 (F)	精検の結果を 把握している 人数 (G)	要精検率 (B/A)	精検受診率 (C/B)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 の集中度 (D/B)	支部名
	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果								
9	212	2	0	63,538	32	513	0.85%	94.13%	0.01%	1.47%	北海道
1	4	234	53	39,129	90	669	1.90%	88.14%	0.01%	0.40%	青森
6	361	112	0	42,685	101	755	1.97%	88.20%	0.03%	1.40%	岩手
0	21	336	0	109,775	47	906	0.86%	95.07%	0.01%	0.73%	宮城
0	33	40	0	20,113	40	240	1.37%	85.71%	0.01%	1.07%	秋田
0	60	83	0	37,258	67	300	0.97%	81.69%	0.00%	0.00%	山形
10	0	102	0	68,805	49	460	1.16%	93.91%	0.02%	1.49%	福島
11	269	428	145	93,768	224	1,600	1.91%	87.72%	0.01%	0.77%	茨城
1	9	350	0	38,578	199	936	2.86%	82.47%	0.02%	0.53%	栃木
4	30	28	1	29,675	35	247	0.94%	87.54%	0.01%	1.07%	群馬
1	3	24	5	11,352	40	78	1.03%	66.10%	0.00%	0.00%	埼玉
5	335	379	3	90,127	162	1,276	1.57%	88.73%	0.01%	0.42%	千葉
3	0	239	185	49,317	138	744	1.80%	84.75%	0.01%	0.33%	新潟
-	-	-	-	141	-	-	0.00%	-	-	-	山梨
0	18	31	0	16,955	23	125	0.87%	84.46%	0.01%	1.35%	長野
0	26	64	0	49,637	37	321	0.72%	89.66%	0.00%	0.56%	富山
0	24	31	0	16,782	26	153	1.06%	85.47%	0.02%	2.23%	石川
1	61	52	0	32,244	56	362	1.28%	86.60%	0.03%	2.15%	福井
2	12	67	16	8,525	47	171	2.49%	78.44%	0.00%	0.00%	愛知
0	19	93	9	17,755	44	209	1.40%	82.61%	0.00%	0.00%	三重
0	1	1	0	6,075	4	6	0.16%	60.00%	0.00%	0.00%	滋賀
-	-	-	-	17,825	298	-	1.64%	-	-	-	京都
1	136	192	0	20,240	112	506	3.13%	82.90%	0.01%	0.46%	兵庫
0	0	5	3	2,117	7	20	1.26%	74.07%	0.00%	0.00%	奈良
0	0	1	0	1,618	2	2	0.25%	50.00%	0.00%	0.00%	和歌山
0	6	14	0	13,533	18	48	0.49%	72.73%	0.01%	1.52%	鳥取
0	1	48	0	8,545	23	127	1.89%	86.06%	0.02%	1.21%	島根
1	26	36	0	25,080	70	120	0.75%	63.16%	0.01%	1.58%	岡山
0	7	49	5	13,899	21	130	1.07%	86.09%	0.02%	1.99%	広島
-	-	-	-	6,229	161	-	2.52%	-	-	-	山口
0	1	12	13	5,179	28	43	1.35%	60.56%	0.00%	0.00%	徳島
0	6	8	0	12,080	28	86	0.93%	75.44%	0.02%	2.63%	香川
0	36	44	0	25,203	26	248	1.08%	90.51%	0.03%	2.92%	愛媛
27	26	26	20	20,747	67	192	1.21%	73.73%	0.01%	0.78%	高知
1	53	185	137	48,927	194	761	1.91%	79.69%	0.02%	1.26%	福岡
3	37	189	0	39,058	252	935	2.93%	78.61%	0.05%	1.78%	佐賀
2	13	32	0	16,627	12	202	1.27%	94.39%	0.02%	1.40%	長崎
0	670	358	93	34,094	236	1,164	3.94%	83.14%	0.03%	0.71%	熊本
1	48	110	0	19,924	31	314	1.70%	91.01%	0.01%	0.58%	大分
0	34	73	0	14,662	37	217	1.75%	85.82%	0.01%	0.38%	宮崎
0	10	151	2	54,934	26	397	0.76%	93.85%	0.01%	1.18%	鹿児島
0	10	7	15	14,053	19	79	0.69%	80.61%	0.01%	1.02%	沖縄
90	2618	4236	705	1,256,808	3,129	15,662	1.50%	83.66%	0.01%	0.91%	合計

がん3年生存率 ▶ 全部位は72% ▶▶▶ 5年は66%

がん診療拠点病院の診断例

国立がん研究センター

国立がん研究センターは8月7日、全国のがん診療連携拠点病院でがんを診断された人の3年後と、5年後の生存率を公開した。

3年生存率は、より早い段階での治療法の効果の把握を期待したもので、昨年初めて公表され、今回が2回目。全国のがん診療連携拠点病院等286施設で2012年にがんを診断された約33万件を分析した。今回は胃、大腸、乳房、肝臓、肺、食道、膵臓、前立腺、子宮頸部、子宮体部、膀胱の11部位に、患者の要望のあった咽頭、胆嚢、腎、腎盂尿管の4部位を加えた15部位について、部位や病期別に集計した。

その結果、がん以外の死因による死亡の影響を除いた生存率(相対生存率)は、がん全体では72.1%で、前回集計より、0.8ポイント高かった。部位別では前立腺(99.2%)が一番高く、乳房(95.2%)、子宮体部(85.9%)、子宮頸部(79.6%)、大腸(78.7%)、胃(75.6%)と続き、低い方では、膵臓が16.9%と最も低く、胆嚢(33.4%)、肺(50.8%)、食道(53.6%)の順に低かった。

また、主な部位をⅠ～Ⅳ期の病期別にみると、Ⅰ期では乳房99.8%、子宮頸部97.2%、胃96.9%、大腸96.4%、肺89.7%、肝臓78.5%、膵臓62.2%だったが、Ⅳ期では乳房56.6%、子宮頸部32.8%、胃10.3%、大腸30.5%、肺12.6%、肝臓7.8%、膵臓3.2%と大きく下がった。

一方、全国のがん診療連携拠点病院等277施設で09年と10年にがんを診断された約57万件を分析した5年生存率は、がん全体では66.1%で、前回より0.3ポイント高かった。部位別では前立腺(98.6%)が一番高く、乳房

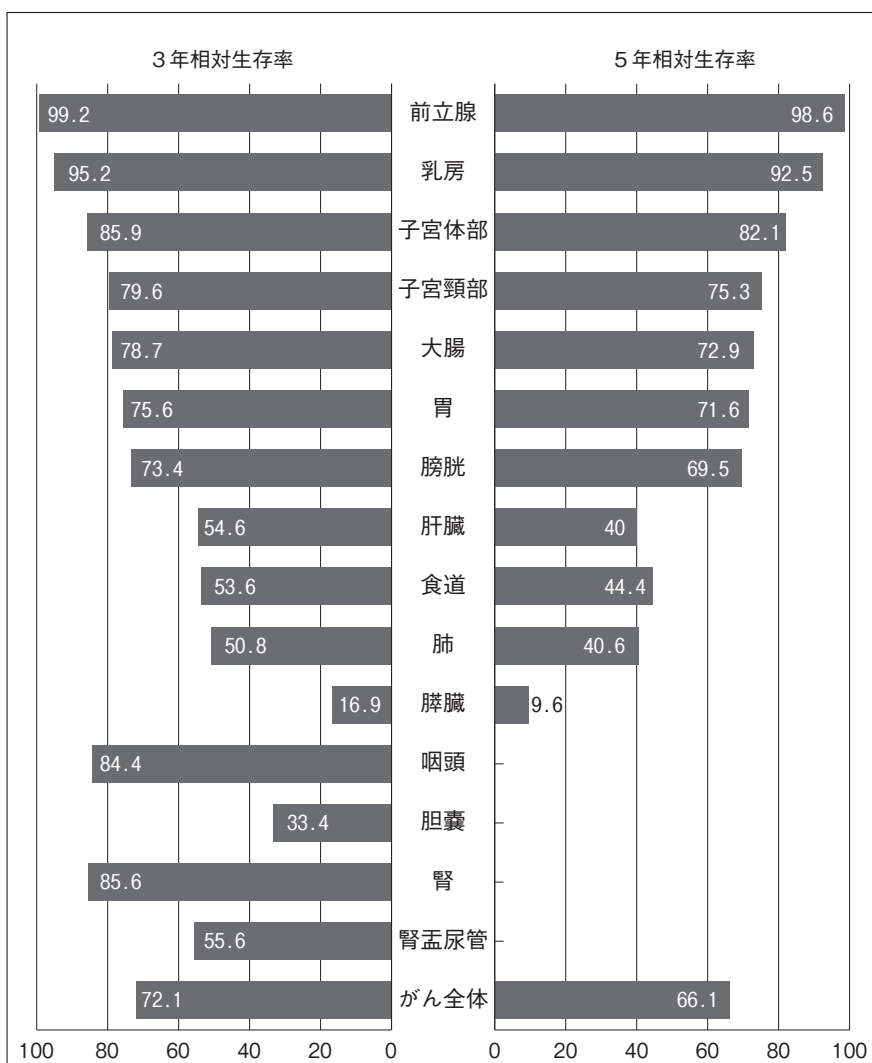
(92.5%)、子宮体部(82.1%)、子宮頸部(75.3%)、大腸(72.9%)、胃(71.6%)と続き、低い方では、膵臓が9.6%と最も低く、肝臓(40.0%)、肺(40.6%)、食道(44.4%)の順に低かった。

主な部位を病期別にみると、Ⅰ期では乳房99.8%、子宮頸部95.3%、胃94.6%、大腸95.4%、肺81.2%、肝臓60.4%、膵臓43.3%だったが、Ⅳ期で

は乳房37.2%、大腸18.7%、子宮頸部25.2%、胃9.0%、肺5.1%、肝臓3.5%、膵臓1.7%と、病期により大きな差が認められた。

また、前立腺はⅠ～Ⅲ期の生存率が100%で、前立腺がんの患者と日本人全体を比較すると、5年後に生存している割合がほとんど変わらない結果となっていた。

がんの部位別の3年相対生存率と5年相対生存率



古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/JCS/>
(ISDNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by **VALUE BOOKS**

お問合せ(株式会社バリューブックス)：0120-826-295
受付時間：10:00-21:00(月～土) 10:00-17:00(日)